

わくわく国際交流

深川国際交流協会 広報誌 Vol.23 2011.3

<http://www.fukakoku.sakura.ne.jp/>



↑ 深川国際交流協会総会



↑ インターナショナルデー 「Musical Chairs」



↑ 青年の家でホームステイ!!～英語でクリスマス～調理 (GINGER BREAD COOKIES)



↑ アボツフォード市公式訪問団交流夕食会



↑ 青少年カナダ交流訪問団壮行会



↑ 青少年カナダ交流訪問団

北京で、思いがけない人、思いがけないこと

深川国際交流協会 会長 小瀧 聰

思いがけない人

昨年10月北京を訪れた。1年ぶりのこの街は相変わらずの混雑ぶり、どこへ行っても、人混みだった。今回は、中心街近くのホテルに予約を取っていた。フロントでチェックインをすると、メッセージが入っていた。3年前、カナダから北京に移り住んだジェイコブ・ハーディンからだ。10年前、ジェイコブは母親マデリンと一緒に4ヶ月間深川に住んだことがあり、深川中学校にも一時期通っていた。また、深川からアボツフォードに訪問した青少年たちのためのホームパーティを開いてくれたこともある。日本を発つ直前に、5、6年ぶりにマデリンからメールが入り、息子ジェイコブが北京にいることを知った。大慌てで、マデリンに私の北京のホテルを伝えておいた。フロントにジェイコブからのメッセージが届いていた。10年ぶりに再会した彼は立派な青年になり、中国人女性と結婚し、中国第2位の強化ガラス製造工場で働いていた。不思議な巡り合わせだと思った。

思いがけないこと

北京に来て2日目、地下鉄で天安門、紫禁城、その中の中山公園、そして徒歩で、一番の繁華街王府井に行った。前回、時間が無く少しだけ垣間見た王府井の迷路のような小路は、若い人で混み合っていた。そして露店で、前の年、勇気が無く食べられなかった蠍（さそり）の串焼きを注文した。20元、4匹がついている。もちろん蠍たちは串に刺さったまま動いている。目の前の鉄板で焼いて、渡された。目をつむって食べた。味の無い海老？

その後、土産物屋に入り学生たちにキーホルダーを買った。そこで、思いがけない事件に遭遇することとなった。270元買い物し、100元札3枚を渡した。ところが、店の人からその中の100元札一枚が受け取れないとつき返された。一瞬、何が起こったのか分からなかった。二セ札だという。にわかには信じられなかった。とにかくそこは、別の札で支払って、近くのレストランに行き夕食をした。再び、その100元札で支払ってみた。数分後、ウェイターが戻ってきた。これは受け取れないという。

こうなったら面白半分、通りの暗がり物売りをしていた少数民族らしき露天商のおばさんにネックレスを買うと言って、その札を渡してみた。なんと、やはり「この札はダメ！」の返事だった。

大変貴重な経験と思い、今もその二セ札を大事に持っている。日本には出来ない体験と思った。

深川国際交流協会総会開催

4月20日（火）、プラザホテル板倉にて「深川国際交流協会総会」を開催しました。

総会では、2009年度事業報告及び決算報告、2009年度監査報告がなされ、2010年度事業計画（案）及び予算（案）が承認されました。

また、2011年度総会での役員改選とあわせ、組織のスリム化をし、さらなる活性化を図るため、規約の改正をすることが確認されました。

規約改正に向けては、1年間さまざま意見をいただく中で改正をしていくこととなりました。



2010 International Day

深川国際交流協会 国際理解部会 宮川 央子

国際理解部会の事業の第一弾として6月9日にインターナショナルデーを開催いたしました。北空知管内で活躍しているAETの協力をいただき、たくさんの拓大留学生と青少年カナダ交流訪問団員やカナダ組の中高生、国際交流協会会員など総勢70名ほどの参加者があり楽しく開催いたしました。

AETによるゲーム、学生会員（カナダ組）によるゲーム、そして拓大留学生によるゲームを行いました。英語に悪戦苦闘し、カナダ組のみんなの楽しいゲームとダンスに汗し、中国語や韓国語に関するゲームなど、

盛り沢山で毎年楽しいひと時を過ごすことが出来ました。

参加するにとっても楽しいのですが、市内の中高校生の参加者が増えない悩みがあります。しかし毎年国際理解部会と国際ソロプチミスト深川クラブが智恵を出し合って参加者同士は大いに楽しんでいます。その雰囲気地域にお知らせして少しずつ人の輪を広げていくことも大切なことと考えます。

青少年カナダ交流訪問団員にもその後の活動として、地域で国際交流のお手伝いの出来る環境作りも大切なことですので、このインターナショナルデーの事業を充実させていきますので、是非参加してみてください。



親睦の集い

深川国際交流協会 国際理解部会長 北本 清貴

毎年恒例となった深川国際交流協会主催の会員交流と会員拡大を目的としたビールパーティ「親睦の集い」が7月14日にプラザホテル板倉で行われました。本年では約20名の中国を中心とした拓殖大学留学生を招待し、総勢で約130名の参加者が集いました。

小瀧会長から現在の国際交流の現状に触れた挨拶があり、寺下副市長の乾杯でこの会が始まった。会場には深川国際交流協会の歩んできた13年の足跡がパネルとして展示してあり、参加者の話題の種となっていました。

パーティーの中盤には、会場のみんなが待ち望んでいた抽選会があり、当協会の若手理事の岡さんと横田さんの進行で始まった。景品はカナダの特産物の他に深川の農産物など約70品あり、抽選会の発表に一喜一憂しながら大きな盛り上がりを見せた。

抽選会の後、谷口理事長から締めめの挨拶をもらい、本年の「親睦の集い」は閉会となりました。



2010 青少年カナダ交流訪問団派遣

2010年7月27日から8月11日の行程で青少年海外派遣事業（青少年カナダ交流訪問団派遣）を実施しました。青少年カナダ交流訪問団のカナダの感想など詳細は、青少年カナダ交流訪問団報告書に掲載されていますので、そちらをご覧ください。

★日程・メンバー紹介★

月日	主な研修・活動内容
7.27	▪ 深川出発～バンクーバー国際空港へ
7.28	▪ 歓迎昼食会、英語の授業
7.29	▪ 英語の授業
7.30	▪ グランビルアイランド、ロブソンストリート、スタンレーパーク散策
7.31	▪ ホストファミリーと過ごす
8.1	▪ ホストファミリーと過ごす
8.2	▪ ホストファミリーと過ごす
8.3	▪ ホワイトロック
8.4	▪ ウォーターズライドとピクニック
8.5	▪ 英語の授業
8.6	▪ フットチャートガーデン、ヴィクトリア
8.7	▪ 姉妹都市委員会メンバーと昼食、ホストファミリーと過ごす
8.8	▪ ホストファミリーと過ごす
8.9	▪ 英語の授業、送別会
8.10	▪ バンクーバー国際空港出発
8.11	▪ 帰国～深川へ

(時間はおおむねです)



【写真の右から】

小林夏子（一已中学校3年生）サブリーダー
 川井由衣（音江中学校3年生）
 石川美幸（深川西高等学校1年生）リーダー
 阿部有紀（一已中学校2年生）
 太田めむ（深川中学校2年生）
 式部南美（一已中学校2年生）
 森岡真希（団長・引率者）

アボツフォード市公式訪問団交流夕食会開催

8月18日から23日までの6日間、深川市の姉妹都市である、アボツフォード市よりピアリー市長をはじめとする6人の公式訪問団が深川市を訪れました。

深川国際交流協会では、8月21日（土）、まあぶバーベキューハウスにて、アボツフォード市公式訪問団交流夕食会を開催しました。

交流夕食会には、約60人が参加。訪問団のみなさんは、青少年カナダ交流訪問団に参加した子どもたちと再会したほか、バーベキューや日本の夏の風物詩になっている「流しそうめん」を楽しみました。また、夕食会では、江差追分も披露され、訪問団と参加者の交流を深めました。

- 16:30 受付開始
17:00 開会
司会：深川国際交流協会 上垣派遣受入交流部会長
歓迎挨拶：深川国際交流協会 小瀬会長
記念品贈呈
公式訪問団代表挨拶：ジョージ・ピアリー市長
17:10 乾杯
歓談
17:30 アトラクション：尺八（民謡）
18:00 アトラクション：流しそうめん
18:50 お開き：深川国際交流協会 谷口理事長
19:00 閉会



青年の家でホームステイ!!～英語でクリスマス～

深川国際交流協会 海外派遣受入交流部会 横田 育子

★プログラム★

＜12月18日＞

- 13:00 開始
【オリエンテーション】
13:30 研修：調理（GINGER BREAD COOKIES）
16:00 研修：創作（Tissue Paper Christmas Wreaths）
18:00 夕食・休憩
19:00 研修：英語版DVDの鑑賞
（How the Grinch Stole Christmas）
21:00 自由時間
22:00 就寝準備
22:30 消灯

＜12月19日＞

- 6:30 起床
7:30 朝食・宿泊室の清掃・整頓
8:30 部屋の点検及び点検終了後集合
8:45 ラジオ体操（英語版）
9:00 研修：AETのゲーム
10:00 研修：英語の歌を覚えよう
（Feliz Navidad & We wish you a Merry Christmas）
11:30 感想レポート提出
11:45 別れのつどい
12:00 終了・解散
（時間はおおむねです）

昨年は、青少年のカナダ交流訪問団の派遣の代替事業として行われた企画でしたが、より多くの子どもたちに海外への関心を深めてもらうべく今年も一事業として、12/18（土）～19（日）にかけて青年の家で行われました。

今回は、風邪の為1名が残念ながら欠席しましたが、中学生5名、高校生5名、将来英語の指導に役立つ様勉強したいということで参加してくれた拓大生の佐藤飛鳥くん、そしてAETのキャロルさん、ケリーさん、サラさん、引率で参加して下さった川原さん、そして国際交流協会からは上垣さん、轡田さん、途中参加してくれた袁口さんそして私を含めた19名で過ごしました。

今回はクリスマス目前ということもあり、クリスマスをテーマに企画を進めてきました。

1日目、オリエンテーションの後全員まあぶへ移動し調理の準備にとりかかりました。作ったのはカナダの伝統菓子「ジンジャーブレッドクッキー」というもので、シナモン

やジンジャー、クローブなどたくさんのスパイスに加え、“モラセス”という黒色の糖蜜を混ぜ込んだ日本ではあまり馴染みのない異国の香りがするクッキーでした。キャロルさんとケリーさんの説明を受け、生徒たちは英語で質問しながら一生懸命クッキー作りをしていました。焼きあがったクッキーに、アイシングペンやマーブルチョコなどでデコレーションをしている生徒たちはとても真剣で、楽しんでいました。

次に皆がとりかかったのは、カラーティッシュを使ったクリスマスリ



ースで、厚紙の上に小さく切った四方形のカラーティッシュをえんぴつの裏に巻きつけながらペタペタと貼っていくという地味な作業が必要な作品でした。緑や赤、白、黄、水色、ピンクなど様々な色のカラーティッシュを、自分のオリジナルなデザインを頭に描きながら、クリスマスソングをBGMにAETと談笑しながら作りあげていました。皆それぞれ自分のアイデアを絞り出して自分だけのオリジナルな素敵なリースに仕上がっていました。

夕食が終わって次の研修は、コーラとポップコーンをお供にDVD鑑賞をしました。「グリッチ」というクリスマスがテーマの映画はコーラとポップコーンを片手にという欧米スタイルにとっても合っていて、生徒たちはその内容にも雰囲気にも満足したのではないかなと思います。

2日目は、朝食の後体育館で英語のラジオ体操で身体をほぐし、その後はドッチボールや、だるまさんが転んだ欧米バージョンの様な遊びを、英語をつかひながら身体をたくさん動かして楽しみました。休憩もそこそこにみんな積極的に遊びに参加している様子がとても頼もしく思えました。

最後の研修は、キャロルさんによるカナダの豆知識とクリスマスソングの合唱でした。生徒たちは、カナダでは公用語にフランス語がつかわれている地域があることや、日本と比べて国土と人口の割合が大きく違うこと、スポーツではホッケーが圧倒的に人気があることなどを学んでいました。

クリスマスソングは「Feliz Navidad(スペイン語“Merry Christmas”）」や「We wish you a Merry Christmas」を、歌の意味や背景、発音の勉強をしながら歌いました。

今回の事業を通して、生徒たちがより身近に英語に触れ、日本では味わうことのできない外国の習慣や文化、遊びなどを体験して何か感じてもらえれば良いなと思いました。大人になってからでは得ることができないことを今、若い生徒の皆さんに経験してもらえることが重要だと思います。この様な経験を通してもっと視野を広げて、ひとりひとりの可能性が広がれば良いなと思います。



やさしい中国語講座 開講

深川国際交流協会 国際理解副部長 淀野 順子

拓殖大学北海道短期大学と深川国際交流協会との共催で、9月15日～12月3日まで、全12回「やさしい中国語講座」を開講しました。開講3年目となった今年度は、17名の受講者が机を並べました。

講師は当初、中国黒竜江省から拓殖大学北海道短期大学に来られた朱麗麗先生が務められました。さまざまな方法で実践的に講座を進めることや、やさしくほがらかな人柄で好評を得ていましたが、やむをえない事情により帰国されました。そのため朱先生に代わり、拓殖大学北海道短期大学で中国語を教えている胡躍華先生を講師として迎え、講座を続けました。

胡先生の講座では、中国語だけではなく、中国の文化などについても解説があり、受講者さんにとって中国を深く理解するためのきっかけとなったようです。講座終了後は、受講者有志による「胡先生を囲む会」が開かれました。講座が、受講者さんにとって有意義な学びの場であったことを実感しています。

今年度の受講者さんから、講座の感想をいただきましたので、紹介します。



～ 2010年やさしい中国語講座を受講して 牛島弘善 ～

9月15日に楽しみにしていた中国語講座が始まりました。講師は朱麗麗先生です。パソコンを活用して視覚的にも楽しめる授業を展開してくださいました。自己紹介に始まって、電話を受ける、スーパーへの道をたずねるなど実践的な内容です。さらに時節に合った中秋節のお話などもあって、楽しい一時間の授業はあっという間に過ぎてゆきます。ただ残念なことに朱先生は体調をこわされて、9月末には中国へ帰国されました。

10月8日からは胡躍華先生が指導に当たってくださいました。胡先生は教室の中では漢語でたくさん話しかけてくださったので、耳を鍛えるよい機会になりました。はじめは、自分の名前を呼ばれてもきょとんとしていた私達でしたが、授業がすすむにつれて、「点名」で自分の名前を聞くと即座に「到」と答えられるようになっていました。教室内での指示も多くは漢語です。「出席を取ります」「それでは授業をはじめます」「私について読んでください」「もう一度言ってください」「もう少し速く読みましょう」「声が大きくていいですね」「わかりましたか」「誰も質問はありませんか」などなどです。

胡先生は発音の大切さを強調されて、ピンインを丁寧に指導してくださいました。カタカナ発音に安易に流されないよい指導であったと感じました。

漢字を使う日本人は、中国とは「同文同種」だという安易な幻想を抱きがちです。中国語の学習はそのような間違った考え方を打ち破る絶好の機会だと受講のたびに再確認しています。朱老師、胡老師、太感謝。

追記

2011年1月18日には、受講生の有志で胡先生を囲む会を開きました。

～ 初めての中国語

板倉 明子 ～

「21世紀は中国の時代」と聞けば、少し中国語をかじっておいた方がいいかもと、軽い気持ちで受講しました。漢字の文字から大意は想像できても、発音し、話すとなるとこれは大変！一時はパニック状態でしたが、胡先生から中国史の資料などを戴くうちに、疑問が次々とわいてきて、次第に「なぜなぜ？」の虜になってしまいました。

・中国から伝わった漢字なのに、どうしてこんなに日本と読み方が異なるのか？

・目上を敬う儒教の思想は、中国から日本に伝わったはずなのに、なぜ日本にだけ「敬語」があって、中国にはないのか？

魯迅の言語簡素化運動により、無くなったと後で先生からお聞きしましたが、そんなにスパッとものを切り捨ててしまう中国とはどんな国なのか。

「なぜなぜ」のハイライトはやはりあの文化大革命です。最後の授業のときには、どうしても我慢ができなくなり、失礼を省みずにお聞きしてしまいました。「先生、紅衛兵だったのですか？」

「いいえ、私はまだ中学生でしたから。高校生以上でないと紅衛兵にはなれなかったのです。でも、お兄さんお姉さんたちのようになりたいと、憧れていました。2年間農村での就労が義務付けられていて、当時は大学が10年くらい学生を募集しなかったため、その間は卒業者が出なかったのです」

もっともっとお話しをお聞きしたくなり、受講生全員に呼びかけて、1月18日、胡先生への感謝の集いを持ちました。7名の出席者からは、本当にいろいろな質問が出ました。「中国はこれからどこへ行くのかは、だれにもわからない。こうあるべきというモデルがない道を私たちは行こうとしているのです。日本の天皇のように長く続くものを持っていない」

共産党革命から文化大革命へと、激動の時代を生きてこられた先生のお話は、鮮明に心に残りました。そして漢字という同じ表意文字の文化圏にある中国について、大切な隣人としてもっともっと知りたいと思いました。

青少年カナダ交流訪問団報告会



7月27日から8月11日の2週間、青少年海外派遣事業（青少年カナダ交流訪問団）に参加した、中高生6人の報告会、「青少年カナダ交流訪問団報告会&国際文化交流パーティー」が12月11日、プラザホテル板倉で行われました。

報告会には、訪問団の保護者など86人が参加。上垣派遣受入交流部会長の司会進行のもと、訪問団員からは、事前研修から研修日ごとに、特に印象深かったことや失敗談の報告があり、会場からは笑いが漏れていました。また、会場の大型スクリーンにはスライド写真も流されました。

その後、訪問団員からは、全体を通しての感想の報告、そして、引率者からの言葉では、引率者がアボツフォード市滞在中に作成したDVDが流されました。

最後に、訪問団員からは、アボツフォード市でのさよならパーティーのときに披露し好評を得た歌「花」が披露され、報告会は終了しました。

（青少年カナダ交流訪問団のカナダでの感想などは、青少年カナダ交流訪問団報告書に掲載されていますので、そちらをご覧ください）



国際文化交流パーティー

深川国際交流協会 国際理解部会長 北本 清貴

12月11日、拓殖大学留学生の方たちに日本の伝統文化を体験して交流を図るため、今回は青少年カナダ交流訪問団報告会&国際文化交流パーティーと2部構成でプラザホテル板倉で開催をしました。

今回参加してくれた留学生は約30名で、青少年カナダ交流訪問団報告会の後、昼食としてモンゴル料理や本場のウーロン茶、プーアル茶など、様々な国の料理が並べられ、初めて口にする料理もあって、それぞれに楽しんで食事をしていました。

食事を楽しんでいる間、ステージではしののめ会による日本舞踊や箏みやび会小田社中による箏演奏があり、特に箏演奏では「さくらさくら」の他にクリスマス直前とあって、「クリスマスソング」が演奏されると、会場から喚起の声があがるほどの盛り上がりがありました。

その後、体験交流として、参加者全員が散らばって「さくらさくら」の箏演奏体験をしたり、茶道体験ではお手前拝見や基本的な作法を教わりながらお茶を飲んだり、日本の着物姿で写真撮影をしたりと、それぞれ思い出に残る様な貴重な体験ができて、笑みがこぼれるほど満足してくれたようです。

最後に、留学生を代表して5組の留学生から、中国の歌の披露や「深川の人たちは本当に優しくて面倒見がいい人ばかりで大好きになりました」というような深川での体験や感謝のスピーチがありました。

閉会にあたって、宮田副理事長から「異文化交流によって、それぞれに貴重な体験ができ、有意義な時間を過ごすことが出来ました」と最後の挨拶で締めくくりました。





◆ 深川国際交流協会「親睦の集い」



◆ 青少年カナダ交流訪問団報告会



◆ 国際文化交流パーティー 茶道体験



◆ 国際文化交流パーティー 諸外国の料理を提供



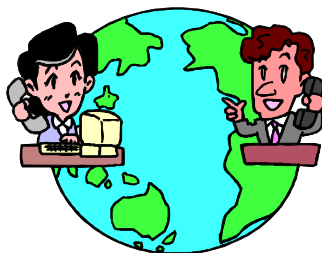
深川国際交流協会会員募集しています！



【問合先】深川国際交流協会事務局（深川市企画課） ☎26-2215

<http://www.fukakoku.sakura.ne.jp/>

世界に発信する深川地球市民



【広報誌発行責任者】中川 良平（総務部会部会長）

【広報誌編集担当】深川国際交流協会 総務部会
部会長：中川 良平 副部会長：岡 隆史